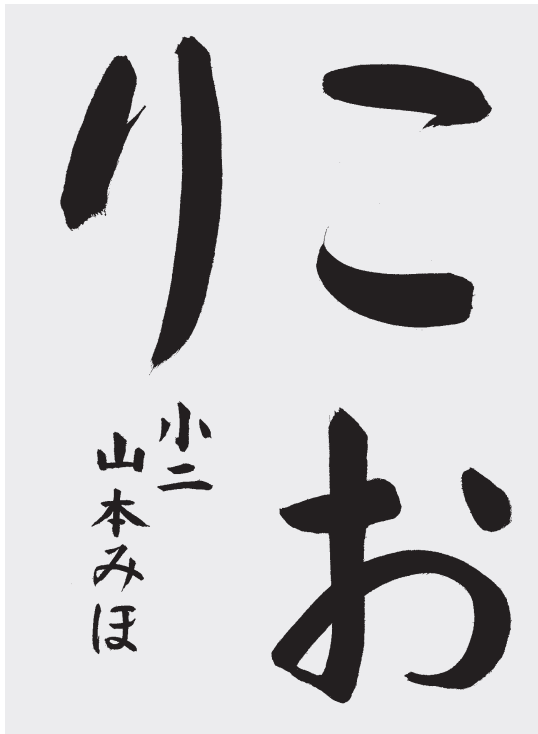


〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

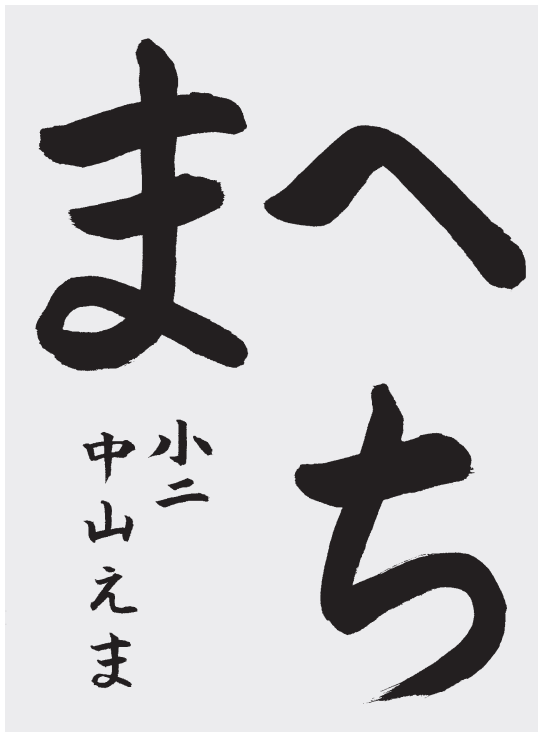


田村 鄭雲 先生

幼・小学1年参考手本



菊池 富美子 先生



田中 扇溪 先生



半田 藤扇 先生

〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本



後藤大峰先生

小学3年参考手本



倉林紅瑤先生



大平邑峰先生



北村白琉先生

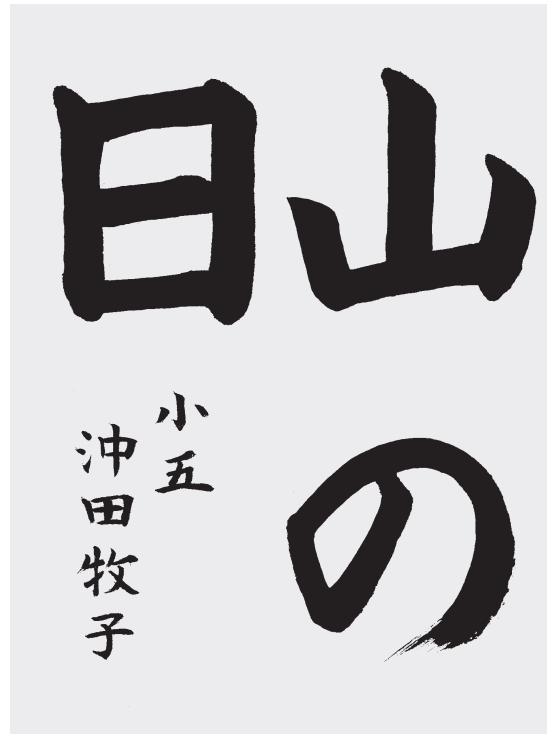
〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

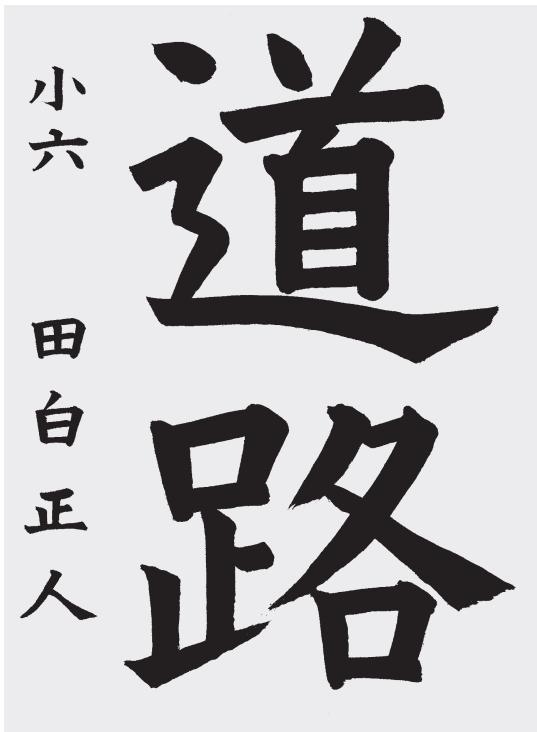


種谷萬城先生

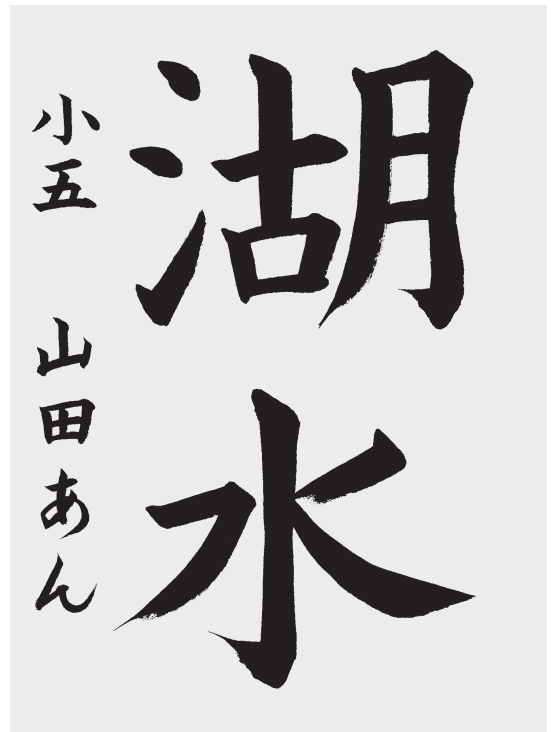
小学5年参考手本



坂本素雪先生



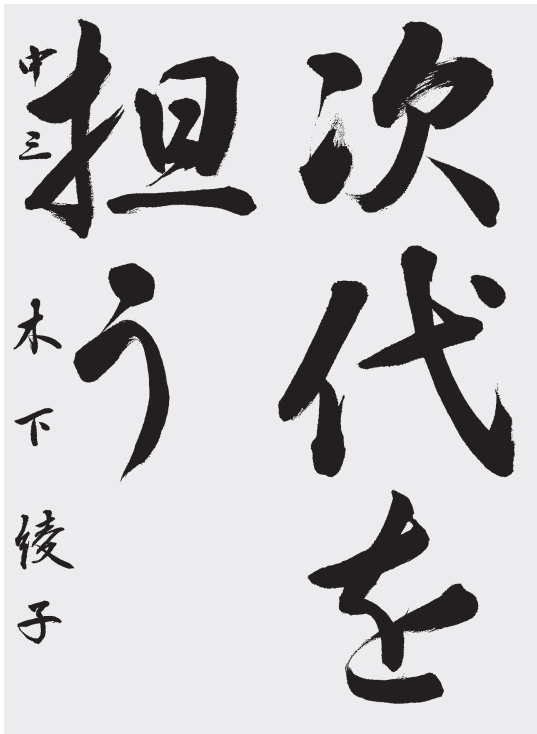
広瀬舟雲先生



工藤永翠先生

〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

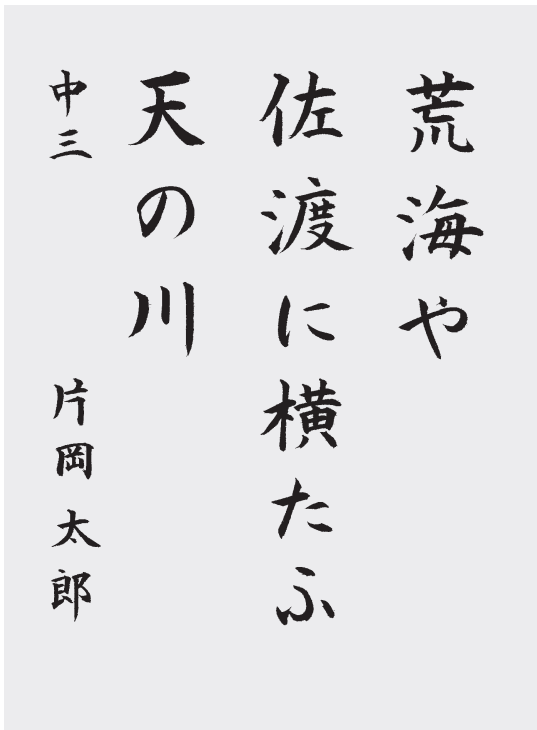
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



辻元大雲先生



千葉蒼玄先生



小竹石雲先生



名越蒼竹先生

毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

1年



曾そちそ
そ(教)

そ(ゴ) そ(明)



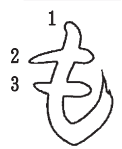
はらう



乃のの
乃のの

もの(ゴ)もの明もの(教)

3年



ひつじゅん

フカ

力もち(ゴ)力もち(明)

カもち(教)

4年



とめる

二つの左払いは上下に並べる

筆順
ハハ 空 実 実

ノ シ イ 行 行 行

実行(ゴ)実行(明)実行(教)

5年



少し出す

筆順

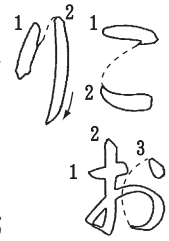
一 山 山

一 山 山 山

山の日(ゴ)山の日(明)

山の日(教)

2年

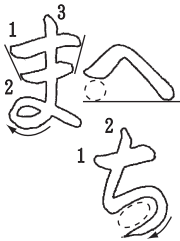


乙こここ

於おお

こおり(ゴ)こおり(明)

こおり(教)



知ちち

へちま(ゴ)へちま(明)

へちま(教)



ひつじゅん

一 ア イ 石 石

石だん(ゴ)石だん(明)

石だん(教)



ひつじゅん

ク 内 内 内 内 内

魚つり(ゴ)魚つり(明)

魚つり(教)

許容
はなす
田
方向

ハの二・三画目の下部はあける

5年



あける

それぞれの部分の高さに注意して組み立てる

筆順

シ 汁 沽 湖 湖 湖

一 才 水 水

湖水(ゴ)湖水(明)湖水(教)

湖水(教)

毛筆参考手本解説(2)

6年

中学

未来社会

〈筆順〉

一 二 三 未 未
一 二 三 中 来 来
フ ネ ネ ネ 社 社
ノ ハ ハ ハ 会 会

未来社会(ヨ) 未来社会(明)

未来社会(教)

道路

あける

〈筆順〉

一 二 三 首 道 道
一 二 三 足 路 路

道路(ヨ) 道路(明) 道路(教)

道路(ヨ) 道路(明) 道路(教)

※手本は許容で書いています

〈許容〉

石は小さく
粉碎身骨

十の止め

長く払う

はなす
払い

〈筆順〉

一 二 三 米 粉 粉
一 二 三 骨 骨
一 二 三 石 碎 碎
一 二 三 身 身 身

粉骨碎身(教)

粉骨碎身(明)

粉骨碎身(ヨ)

やさしい行書

行書のポイント

点画がやや曲線的になる。次につながる気持ちで。

自在

自

次代を

担う

次代を担う

荒海や

佐渡に横たふ

天の川

※ポイント

- 漢字より平仮名をやや小さく。
- 行頭に高低の変化をつけたり、行間に変化をつけたりして書いてもよい。
- 筆ほどの大きさでもかまいません。工夫してみてください。

ひらがなの字源 (417)

の	ふ	た	に	や	う	を	字源	字形
乃	不	太	仁	也	宇	遠		
乃	ふ	た	に	や	う	を		
の	ふ	た	に	や	う	を		

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

荒海や

佐渡に横たふ

天の川

〔例〕行頭を

変化して書く

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学2年

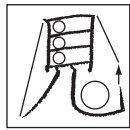
幼・小学1年

硬筆参考手本

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

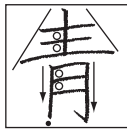
支 部 名		才			
		を		あ	
段・級		見		さ	
		つ		、	
学 年		け		青	
	二	た		い	
名 前		。		ア	
	白			サ	
	川			ガ	
	五				
	月				

支 部 名		し			
		ま		み	
だん・きゅう		し		ず	
		た		あ	
がくねん		。		そ	
	一			び	
なまえ				を	
	い				
	が				
	あ				
	お				
	い				



上にはねる

〈ひつじゅん〉
 見(見) 見(明) 見(教)



〈ひつじゅん〉
 青(一) 青(明) 青(教)

横画の間かくに注意しましょう。

中(心) 1 2 3
 ま(ま) 明(明) 教(教)
 むすびのかたちにもちゅうい

1 2
 ひ(ひ) 明(明) び(教)
 いったんとめて上へ

1 2
 み(み) 明(明) み(教)
 おれ 2 とめ
 まげすぎない

むすびとはらいに注意しましょう。

〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年

小学5年

支部名			
段・級			
学年	六		
名前	坂田愛花		
	す	現	歴
	ふ	代	止
	し	で	史
	ぎ	も	に
	な	そ	残
	か	の	る
	が	心	演
	あ	を	説
	る	動	は
	。	か	、

支部名			
段・級			
学年	五		
名前	中村歩		
	置	見	そ
	を	て	こ
	た	自	に
	し	転	あ
	か	車	る
	め	を	案
	ま	止	内
	し	め	板
	た	る	を
	。	位	

「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書きましょう。

最後の画の長さや方向が大切
 動(三) 動(明) 動(教)
 説(三) 説(明) 説(教)
 演(三) 演(明) 演(教)

曲がり
 「口」をへん平に
 つくりの「力」を下に。

演(三) 演(明) 演(教)
 演(三) 演(明) 演(教)

漢字の字形を正しく整えて書きましょう。

間かくに注意する
 置(三) 置(明) 置(教)
 転(三) 転(明) 転(教)
 案(三) 案(明) 案(教)

中心
 「女」をへん平に
 長く
 案(三) 案(明) 案(教)

〔8月3日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生（行書）

中学生（楷書）

支部名	いのりを全人類に発信している。 世界遺産に登録され、平和への 広島の原爆ドームは、ユネスコの
段・級	
学年	
中一	
名前	
小山陽菜	

支部名	いのりを全人類に発信している。 世界遺産に登録され、平和への 広島の原爆ドームは、ユネスコの
段・級	
学年	
中一	
名前	
小山陽菜	

和
類
類

・行書のワンポイントアドバイス
行書は楷書に比べて、筆路（点画のつながり）が明確です。これによって、和らぎや流れが生まれます。

須
須
ス

由
由
ユ

己
コ

祢
ネ

登
登
（筆順）

漢字、ひらがな、カタカナをつりあいよく書きましょう。漢字はすこし大きく。

これからの作品締切日と課題

令和8年9月号～9年2月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切	
夕映えの富士	名月	正倉院	開始	林道	田んぼ	ひろば	る	9月6日	9月号
がりがり	前代未聞	祝日 国民の	飛ぶ	金メダル	秋	ねがい	つき		
馬耳東風	(天地)孔子廟堂碑・集字	有名な人	家族	町村	見る	もみじ	え	10月5日	10月号
表現	手書き	達成感	時計	安全	虫かご	月	よむ		
理路整然	(王道)孔子廟堂碑・集字	周 困	野原	月光	気	えがお	は	11月5日	11月号
伝統的な技法	(集字)孔子廟堂碑・集字	詩を書く	筆の里	大切	竹やぶ	ダム	すみ		
無形文化遺産	(未来)集字聖教序・集字	海岸線	星ふる夜	方向	広がり	つばさ	き	12月3日	12月号
見聞を広める	(集字)聖教序・集字	楽しい声	登 録	生きる力	夕やけ	かもめ	ふゆ		
心機一転	(出典)集字聖教序・集字	固い決意	百人一首	冬ごもり	羊	おせち	ね	1月7日	1月号
炭を継ぐ	(集字)聖教序・集字	観察力	理想	新春	はつゆめ	ひつじ	もち		
千変万化	(心得)九成宮醴泉銘・集字	お手伝い	文庫	図工	よろこび	ゆびわ	む	2月7日	2月号
美しい梅林		世界旅行	波の音	点画	外国	ポスト	やま		

9月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

ぜ	あ
が	た
ふ	た
い	か
て	い
き	か
た	か

小 2

雲の上をさんぽで
きたら楽しいね。

小 3

友だちの考えをよ
く聞いてから話そう。

小 4

青になると大通りに
止まった自動車がいつ
せいに走り出した。

小 5

この町の昔からの工
芸は和紙作りだと社会
科の時間に学習した。

小 6

土器のある考古資料
室は、常設コーナーを
通り過ぎすぎ左側です。

中学生

環境問題について友達と
意見交換し、「私たちは何を
すべきか」を考えた。

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院理事です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第113回 「隣」という漢字の成り立ちと字形の変遷

「隣」という漢字の成り立ちと字形の変遷について調べてみました。現在、中学校で学習する漢字の「隣」は、「こぎとへん」に「米十舛」という字形ですが、「鄰」と書いていた時代もありました。はたして上部は、稲の「こめ」の意味なのでしょう。はるか大昔の象形文字である「金文」、そしてその次の時代の「篆書」の時代にさかのぼって見てみましょう。

今日の楷書では「米十舛」のように2つの部分となっていますが金文の時代では、なんとこの上下が一体化していて「大」の字の形をした「人」のまわりに点が4つ配置されているのです。これを文字学者として有名な白川静さんは、生け贄にされた人で、その周りに、鬼火（死体から生じた霊・怪火）が点在している様子としています。よってその足元にある「舛」の形は、生け贄にされた人の右足と左足の形ということ。この金文の時代の「こぎとへん」は、神様の昇り降りする神梯（はしご・階段）といえます。その前に生け贄を置いて、わるい霊を祓う呪いをしたというのです。その呪いをした聖なる場所が「隣」であったと説き、「となり」として用いられるようになるのは後のこととしています。ちなみに焔十火へんの「隣」は、先ほどのべた鬼火の意味そのものです。戦国時代の

戦場等では青白い鬼火をみるが多かったといえます。

金文で焔は「生け贄が鬼火を発する形」でしたが、その傍の上部が一見すると「米」の形にも見えました。次の篆書（小篆）の時代になると焔の上部が「火が2つ」の形に変化、そして部首が「おおざと（邑）」に変わります。ここでは人の形がなくなり、火のみが強調されるようになったことがわかります。

隷書の時代になると、焔の上部の字形が異なる二つの形が登場します。隷書⑦は金文の形が一見「米」の形にみえたことによることから生じた字形で、今日の楷書の字形に受け継がれたものです。隷書⑧は本来の金文の形を踏襲した「生け贄と鬼火」の省略形（二つの鬼火＋「土」のように見える部分は、生け贄の両足を床上で最大限に開き一直線とした形）であることが判りました。また、隷書⑨は、篆書の「火十火」のかんりの省略形ともいえるかもしれません。

金文	
篆書	
隷書	⑦ ⑧ ⑨

今月のホープ



中三 宮内杏奈 (春華)

しなやかなリズムが颯爽とし、清潔感漂う作品。慣れた行書の動きがこれだけ自然に表現できることに感嘆します。



小三 高橋音羽 (紅葉書塾)

字形がとても美しく、一点一画が正確に丁寧に書かれています。日頃の練習の成果を感じさせる素晴らしい作品です。

支那名	け		切		古	
わかば	つ	が	な	典	芸	能
段・級	が	れ	の	は	は	人
四段	れ	て	財	は	々	の
学年	い	く。	産	は	大	
六			と			
氏名			し			
藤井来唯			て			

小六 藤井来唯 (わかば書道教室)

全ての点画を丁寧に書き字形も整いました。名前にいたるまで気持ちがかもり、表情豊かな目を引く作品です。

支那名	げ		ま		友	
芳静会	て	発	る	と、	達	は、
段・級	言	言	と、	元	は、	学
準特	し	言	元	気	学	級
学年	ま	言	気	に	会	会
五	し	言	手	手	が	始
氏名	ま	言	を	を	始	
藤田紗綾	し	言	拳			

小五 藤田紗綾 (芳静会)

筆圧の変化が自然でリズム良く明るいです。漢字・ひらがな共に美しく整いました。

春季昇段級試験最優秀作品



自然な行書の筆路で、美しいリズムが出ました。直筆のしっかりした運筆のため品格が漂い、名前も含めて全体もよく整っています。

中三 関口小浪(足利)



紙面一杯に運腕大きく引き締まった線が広がりました。実に堂々と豊かに最後まで迷いなく書き切り、見事な作品です。

小六 堀内咲良(雲母)

支部名	若葉会青森	とかくに人の世は住みにくい。	は流される。意地を通せば窮屈だ。	智に働けば角が立つ。情にさおさせ
段・級	五上			
学年	中三	氏名 雪田彩羽		
氏名	雪田彩羽			

筆意が自然で鍛錬された線が爽やかでかつシャープに流れる様は目みはります。とてもしっかりとした字形が光っています。

中三 雪田彩羽(若葉会青森)

支部名	東葉	めが並んでいました。	と目玉焼きと野菜いた	テールには、パン
段・級	準特			
学年	六	氏名 山本侑果		
氏名	山本侑果			

線の骨格をしっかりと紙面に定着させながら点画がとても丁寧に書かれています。堂々たる作品となった傑作です。

小六 山本侑果(東葉)

幼・1年

る
みうらこうた

つき
小一 さとうたろう

2年

ばひろ
小二 森まり

いねが
小二 田中花

3年

ぼ田ん
小三 大川さき

秋
小三 大月空

4年

林道
小四 市川京子

金ルメ
小四 向井真子

5年

開始
小五 山口友子

飛ぶ
小五 三上良子

6年

正倉院
小六 永井武

国民の祝日
小六 水野美和

中学

名月
中一 田山香太

前代未聞
中一 西村 達

夕映えの富士
中三 佐藤太郎

もみぢがり
中三 三井美子

編集余録

○春季昇段級試験の最優秀作品と特待生に合格された方を紹介しました。また、審査長の下谷洋子先生より総評を頂きましたので、今後の学習の参考にして下さい。皆さんの一層の上達を願っています。

○7月8日より、第77回毎日書道展が開催されます。毎日書道展は、出品数約2万5千点の国内最大規模の公募展です。書道芸術院の先生方も多く出品していますので、是非足を運んでみてください。

○今月のお手本「荒海や佐渡に横たふ天の川」は、松尾芭蕉の「おくのほそ道」の一句です。松尾芭蕉は、江戸時代初期の俳人で、元禄二年（一六八九年）に弟子の曾良とともに、江戸（東京）から東北・北陸を経て大垣（岐阜県）に着くまで、約二四〇〇キロメートル、約一五〇日間の旅をしました。その旅の体験や各地の様子などを文章や俳句でまとめた紀行文が「おくのほそ道」です。

「荒海や佐渡に横たふ天の川」を現代語訳にすると、「荒れ狂う日本海の荒波の向こうには佐渡島がある。空を見上げると、白く美しい天の川が佐渡の方までのびて横たわっていて、とても雄大だ」という意味で、芭蕉が新潟県出雲崎の浜から遥かに佐渡を望んで詠んだとされています。（悠輝）